

結婚総合意識調査2023

ウェディングイベント実施率は78.6%で2年連続増加、コロナ前水準に
自分たちに合った結婚式が実現できる認識が実施に関係
ゲストは二人らしさを感じると参列満足や結婚式意欲に影響

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）が企画運営する『リクルートブライダル総研』では、結婚や結婚式について詳細を把握するために、「結婚総合意識調査2023」を実施しました。ここに、調査結果の要旨をご報告致します。

1. 既婚編（調査対象：2022年4月～2023年3月に結婚した20～49歳の男女）

ウェディングイベントの実施率は78.6%で2年連続増加

- ✓ コロナ影響による延期・キャンセル・非実施割合は4.7%。2020年調査（19年4月～20年3月）の水準に。（→P4）
- ✓ 何らかのウェディングイベントを実施した割合は78.6%で、昨年より2.9ポイント増加。2021年調査から年々増加。コロナ流行前の2019年調査と比べてみてもコロナ前水準近くまで回復（対2019年比97.4%）。また全てのウェディングイベントにおいて昨年よりも増加。（→P5）
- ✓ ウェディングイベントの組み合わせの最多は「挙式、披露宴・ウェディングパーティー、親族中心の食事会、写真」の全てを実施した層で、コロナ流行前の2019年調査より増加。（→P6）

結婚式の実施を決める前に“自分たちに合った結婚式が実現できる認識”が結婚式の実施率に関係

「結婚が決まり、挙式、披露宴・ウェディングパーティーの実施が決まる前」に「自分に合った結婚式ができる」と思った層の方が、それ以外の層に比べて結婚式実施率が高い。（→P7）

2. ゲスト編（調査対象：2022年4月～2023年3月に結婚式にゲストとして出席した20歳以上の男女）

挙式、披露宴・ウェディングパーティーの参列意欲が高まり、コロナ影響による抵抗が減少

2021年調査と比較し、参列意欲が9.5ポイント増加。出席時に「コロナが理由で参加を迷った」が15.0ポイント減少し、「参加を迷わなかった」が16.2ポイント増加。（→P8）

直近3年間で結婚式参列の意味合いが多岐にわたり増加

結婚式出席後のゲストの気持ちについて、21年調査と比較して変化した上位5項目は、「（出席して）自分の子どもにも『結婚してほしい』という気持ちが高まった」（10.3ポイント増）「（出席して）家族との関わり方を見つめ直す良い契機となった」（7.8ポイント増）「（出席して）新郎や新婦との関係が深まった」（7.3ポイント増）「（出席して）自分の人生に対して、より前向きに感じられるようになった」（7.1ポイント増）「（出席して）周囲の人・仲間の大事さを、あらためて感じた」（6.0ポイント増）でいずれも2年連続増加。（→P9）

参列で二人らしさやオリジナリティーを感じると満足度が高く、結婚式意欲に影響

- ✓ ゲストの気持ちにおいて、「良かった」「ポジティブな感想を出席後、周囲の人に伝えた」「将来結婚したら『挙式、披露宴・ウェディングパーティーを実施したい』という気持ちが高まった」の項目を見ると「（出席して）結婚式を通じて二人らしさやオリジナリティーを感じた」層の方が感じなかった層に比べて高い。（→P10）
- ✓ ゲストが参加してみたいと思う挙式、披露宴・ウェディングパーティーは、「新郎・新婦のことを理解できる」「形式にとらわれず、自由な」といった内容が、コロナ流行前比で増加。（→P11）

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

■ 2023年調査の概要[既婚編]

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

< 予備調査（スクリーニング調査） >

【調査期間】 2023年4月3日(月)～2023年5月8日(月)

【調査対象】 全国16～79歳の男女（株式会社マクロミル 登録モニター）

【有効サンプル数】 254,995人

< 本調査 >

【調査期間】 2023年4月19日(水)～2023年5月8日(月)

【調査対象】 “結婚した時期”を「2022年4月～2023年3月」と回答した、20～49歳（調査時）の既婚者

【有効サンプル数】 2,542人

【集計サンプル数】 1,500人

< 集計サンプルの割り付け >

本調査対象者の【性別】【年齢】【調査時の居住地】の構成割合を、「厚生労働省 人口動態統計 2021年婚姻件数（当該年に結婚生活に入り届け出たもの）、夫-妻の結婚生活に入ったときの年齢（各歳）：夫妻の平均婚姻年齢、初婚-再婚・都道府県（特別区-指定都市再掲）別」と同じ比率になるようにサンプル数を割り付けた。（全国17エリア×性別×年代 計102セル）

【集計サンプルの性別×結婚時の年齢×居住地 構成】

		北海道	東北	北関東	北陸甲信越	首都圏	東海	関西	中国	四国	九州・沖縄
男性 (人)	20代(19歳含む)	9	15	12	24	102	46	76	18	11	41
	30代	13	26	19	26	82	28	45	16	8	36
	40代	4	4	5	8	30	8	16	5	3	10
女性 (人)	20代(19歳含む)	15	27	22	42	131	50	82	28	12	53
	30代	9	14	11	20	69	20	36	14	7	29
	40代	3	4	4	6	17	6	11	3	2	7

*結婚時の年齢を不明処理しているサンプルは【集計サンプル数】 1,500人から除く処理を行っている。

*図表中の構成比(%)は百分率で表示してあります。百分率は小数点第2位を四捨五入してあるため、構成比の合計が100%にならない場合があります

< 追跡調査 >

本調査回答者に追加でアンケートを配信し、1,500サンプルのうち1,255サンプルが回答した（回答率83.7%）1,255サンプルの居住地、年代構成比を、本調査と同様になるようにウェイトバック処理を行った。

■ 過去調査（2022年／2021年／2020年／2019年調査）の概要

	2022年調査	2021年調査
調査方法	インターネットによるアンケート調査	インターネットによるアンケート調査
調査期間	1次調査:2022年4月27日(水)～2022年6月13日(月) 2次調査:2022年5月23日(月)～2022年6月10日(金)	1次調査:2021年5月10日(月)～2021年6月4日(金) 2次調査:2021年5月20日(木)～2021年6月4日(金)
調査対象	結婚した時期が「2021年4月～2022年3月」の20～49歳の既婚者	結婚した時期が「2020年4月～2021年3月」の20～49歳既婚者
有効サンプル数	1次調査:262,147人 2次調査:2,097人	1次調査:267,189人 2次調査:2,594人
	2020年調査	2019年調査
調査方法	インターネットによるアンケート調査	インターネットによるアンケート調査
調査期間	1次調査:2020年4月17日(金)～2020年6月3日(水) 2次調査:2020年5月1日(金)～2020年6月3日(水)	1次調査:2019年5月10日(金)～2019年5月31日(金) 2次調査:2019年5月22日(水)～2019年6月5日(水)
調査対象	結婚した時期が「2019年4月～2020年3月」の20～49歳の既婚者	結婚した時期が「2018年4月～2019年3月」の20～49歳既婚者
有効サンプル数	1次調査:268,947人 2次調査:2,326人	1次調査:269,814人 2次調査:2,454人

■ 2023年調査の概要[ゲスト編]

【調査方法】 インターネットによるアンケート調査

< 予備調査（スクリーニング調査） >

【調査期間】 2023年4月18日(火)～2023年4月25日(火)

【調査対象】 全国20歳以上の男女（株式会社マクロミル 登録モニター）

【有効サンプル数】 40,000人

< 本調査 >

【調査期間】 2023年4月19日(水)～2023年4月26日(水)

【調査対象】 「2022年4月～2023年3月」に結婚式にゲストとして出席したと回答した人

【有効サンプル数】 1,241人

【集計サンプル数】 800人

< 集計割り付け >

予備調査で抽出した本調査条件該当者全体（1年以内に結婚式にゲストとして出席した人）の性別・年代ごとの構成比に合わせて、サンプル数を割り付けた。

【集計サンプルの性別×年代 構成】

	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	合計
男性 (人)	127	111	46	32	106	800
女性 (人)	121	78	33	37	109	

*図表中の構成比(%)は百分率で表示してあります。百分率は小数点第2位を四捨五入してあるため、構成比の合計が100%にならない場合があります

■ 過去調査（2022年／2021年／2018年調査）の概要

	2022年調査	2021年調査
調査方法	インターネットによるアンケート調査	インターネットによるアンケート調査
調査期間	1次調査:2022年5月17日(火)～2022年5月19日(木) 2次調査:2022年5月19日(木)～2022年5月29日(日)	1次調査:2021年5月18日(火)～2021年5月24日(月) 2次調査:2021年5月22日(土)～2021年5月27日(木)
調査対象	「2021年4月～2022年3月」で結婚式にゲストとして出席したと答えた人	「2020年4月～2021年3月」で結婚式にゲストとして出席したと答えた人
有効サンプル数	1次調査:40,000人 2次調査:834人	1次調査:40,000人 2次調査:832人
	2018年調査	
調査方法	インターネットによるアンケート調査	
調査期間	1次調査:2018年5月14日(月)～2018年5月18日(金) 2次調査:2018年5月18日(金)～2018年5月21日(月)	
調査対象	「2017年4月～2018年3月」で結婚式にゲストとして出席したと答えた人	
有効サンプル数	1次調査:20,000人 2次調査:832人	

※2020年、2019年はゲスト編の調査非実施

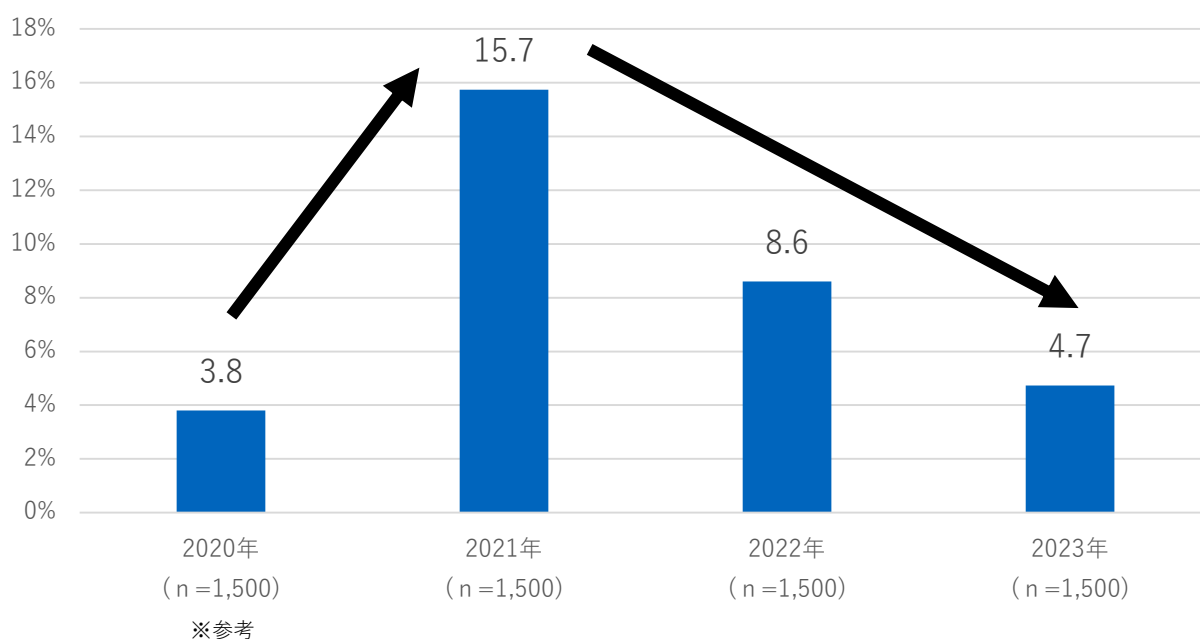
コロナ影響による延期・キャンセル・非実施割合は4.7%。2020年調査（19年4月～20年3月）の水準に。

■ コロナ影響による延期・キャンセル・非実施割合（全体／単一回答）

※コロナ影響による延期・キャンセル・非実施者：結婚を機としたウエディングイベント非実施者のうち、いずれかのウエディングイベントで「コロナ理由でキャンセルor延期（以下5選択肢いずれか）」回答者
 （新型コロナウイルスの影響を受けた）

- 予約していた会場・プランなどを延期した
- 予約していた会場・プランなどをキャンセルした（いつかは実施する予定）
- 予約していた会場・プランなどをキャンセルした（これからも実施する予定はない）
- 特に予約はしていないが、時期を延期した
- 特に予約はしていないが、実施するのをやめた（これから実施する予定もない）

※結婚を機としたウエディングイベント：「挙式」「披露宴・ウエディングパーティー」「その他ウエディングパーティー」「親族中心の食事会」「写真撮影」の総称

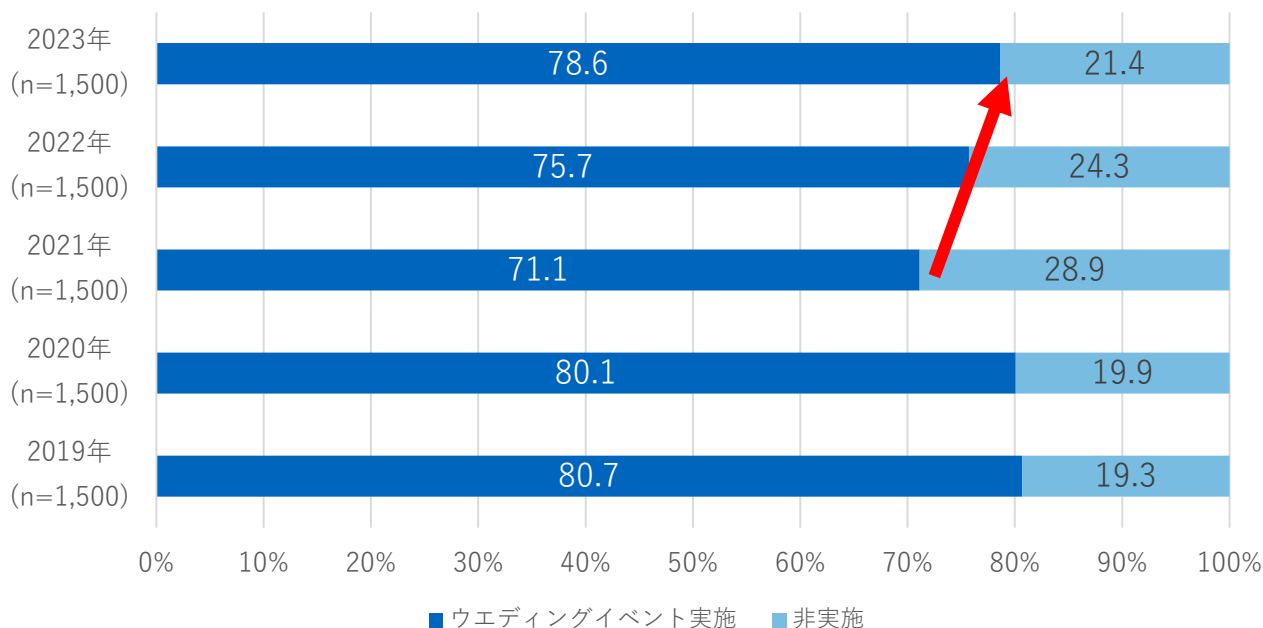


何らかのウエディングイベントを実施した割合は78.6%で、昨年より2.9ポイント増加。2021年調査から年々増加。コロナ流行前の2019年調査と比べてみてもコロナ前水準近くまで回復（対2019年比97.4%）。また全てのウエディングイベントにおいて昨年よりも増加。

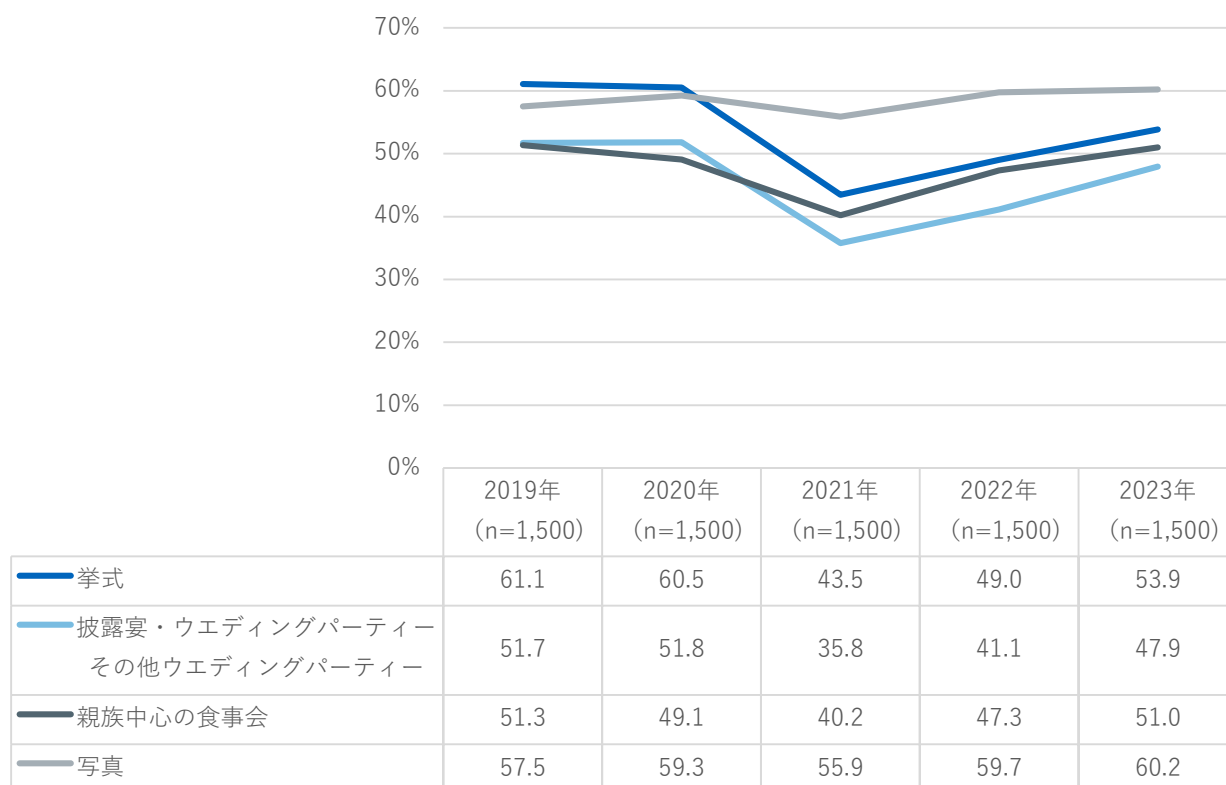
■ 結婚を機としたウエディングイベント実施状況（全体／単一回答）

※ウエディングイベント：「挙式実施者」「披露宴・ウエディングパーティー実施者」「その他ウエディングパーティー実施者」「親族中心の食事会実施者」「写真撮影実施者」

※実施したイベント：「これから実施する予定（時期や内容もほぼ決まっている）」を含む



■ 結婚を機としたウエディングイベント実施状況（全体／複数回答）



※写真（スタジオ撮影、ロケーション撮影、エンゲージメントフォト、その他結婚を機に実施したウエディングフォト・写真撮影会）

ウエディングイベントの組み合わせの最多は「挙式、披露宴・ウエディングパーティー、親族中心の食事会、写真」の全てを実施した層で、コロナ流行前の2019年調査より増加。

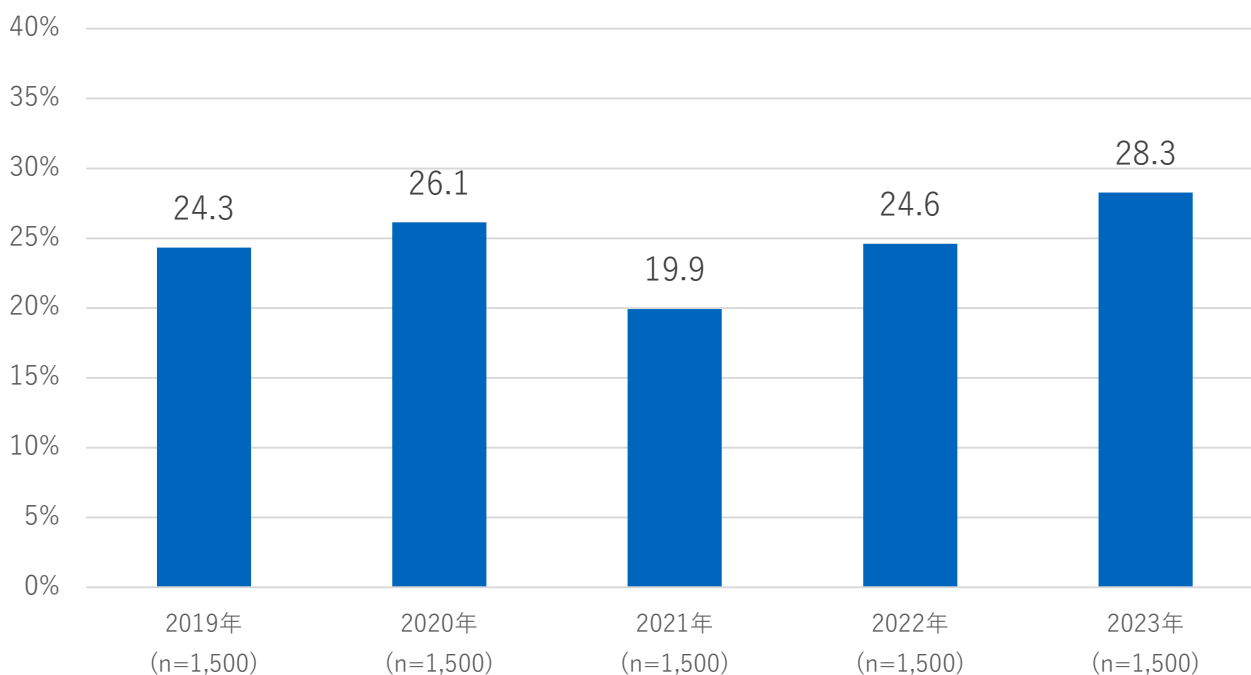
■ ウエディングイベントの組み合わせごとの実施率（全体／単一回答/n=1,500）

<ウエディングイベント種類>

①挙式 ②披露宴・ウエディングパーティーorその他ウエディングパーティー ③親族中心の食事会 ④写真

ウエディングイベントの組み合わせ	実施率 (%)
①挙式 ②披露宴・ウエディングパーティーorその他ウエディングパーティー ③親族中心の食事会 ④写真	28.3
①挙式 ②披露宴・ウエディングパーティーorその他ウエディングパーティー ④写真	10.0
④写真	9.8
③親族中心の食事会	7.3
③親族中心の食事会 ④写真	6.3
①挙式 ②披露宴・ウエディングパーティーorその他ウエディングパーティー	4.3
①挙式 ②披露宴・ウエディングパーティーorその他ウエディングパーティー ③親族中心の食事会	4.0
①挙式 ③親族中心の食事会 ④写真	3.0
①挙式 ④写真	1.8
①挙式 ③親族中心の食事会	1.5
①挙式	1.0
②披露宴・ウエディングパーティーorその他ウエディングパーティー ③親族中心の食事会 ④写真	0.6
②披露宴・ウエディングパーティーorその他ウエディングパーティー ④写真	0.5
②披露宴・ウエディングパーティーorその他ウエディングパーティー	0.3
②披露宴・ウエディングパーティーorその他ウエディングパーティー ③親族中心の食事会	0.1
非実施	21.4

■ 「挙式＋「披露宴・ウエディングパーティー、その他ウエディングパーティー」 「親族中心の食事会」＋「写真」の実施率の推移（全体／単一回答）

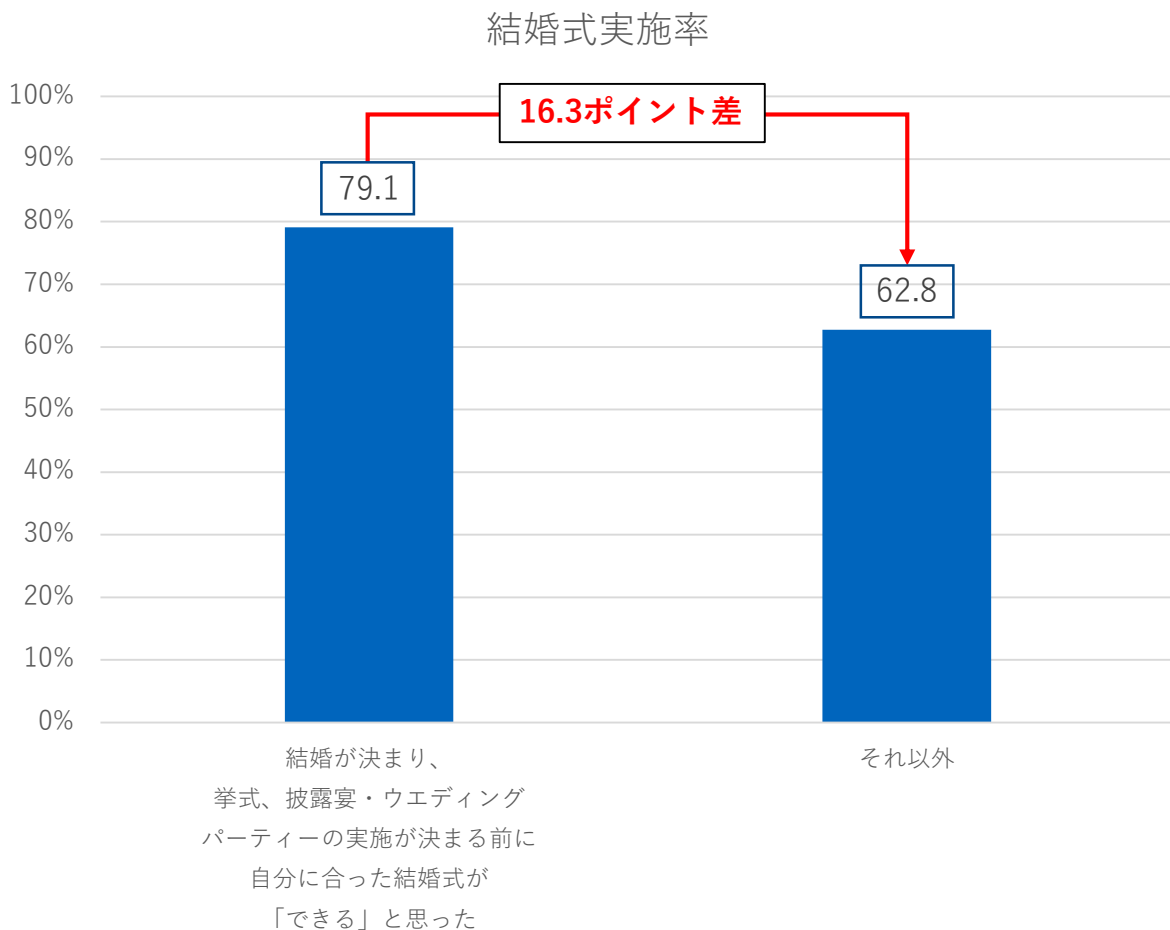


「結婚が決まり、挙式、披露宴・ウエディングパーティーの実施が決まる前」に「自分に合った結婚式ができる」と思った層の方が、それ以外の層に比べて結婚式実施率が高い。

■ 「自分に合った結婚式ができる」認識時期別の結婚式実施率（追跡調査／「自分たちに合った挙式、披露宴・ウエディングパーティーができると思った」の回答者／単一回答）

※下表の結婚式実施率：「挙式」「披露宴・ウエディングパーティー」「その他ウエディングパーティー」の実施者

※感じたタイミングを「その他」含めた13のタイミングで質問（複数回答）そのうち、「結婚が決まり、挙式、披露宴・ウエディングパーティーの実施が決まる前」とは、「式場に来館する前、実施を検討している期間」「式場に来館し、実施を検討している期間」「結婚が決まった後、挙式、披露宴・ウエディングパーティーにゲストとして参加したとき」のいずれかに回答があった者

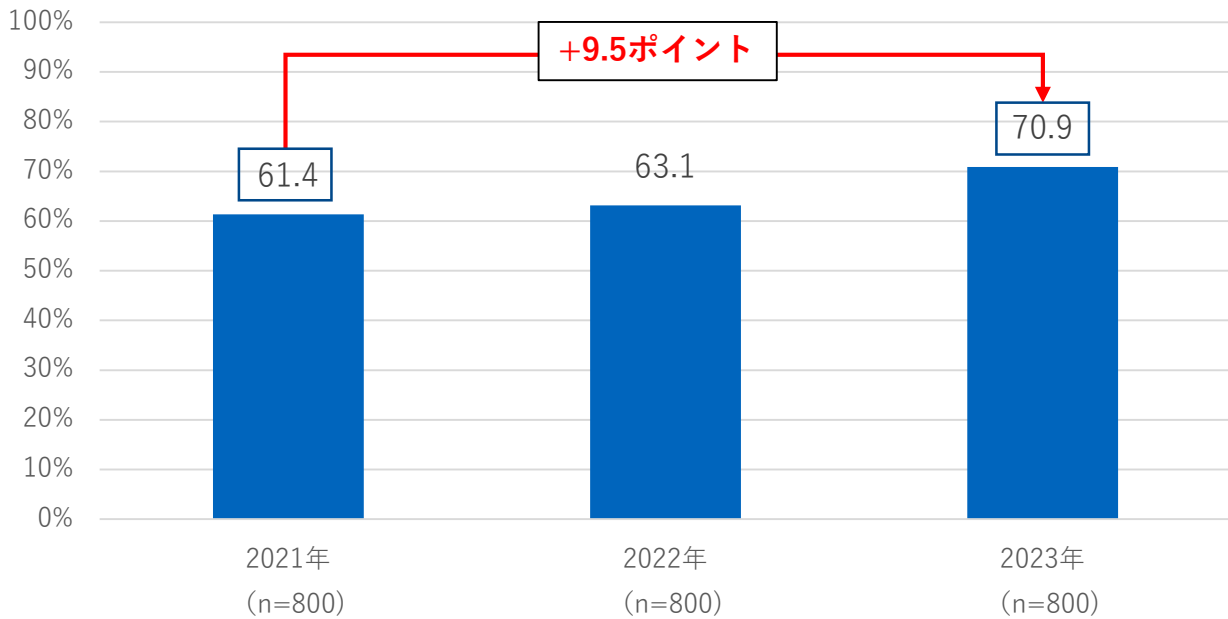


2021年調査と比較し、参列意欲が9.5ポイント増加。出席時に「コロナが理由で参加を迷った」が15.0ポイント減少し、「参加を迷わなかった」が16.2ポイント増加。

■ 「挙式、披露宴・ウエディングパーティー」への参加について（全体／単一回答）

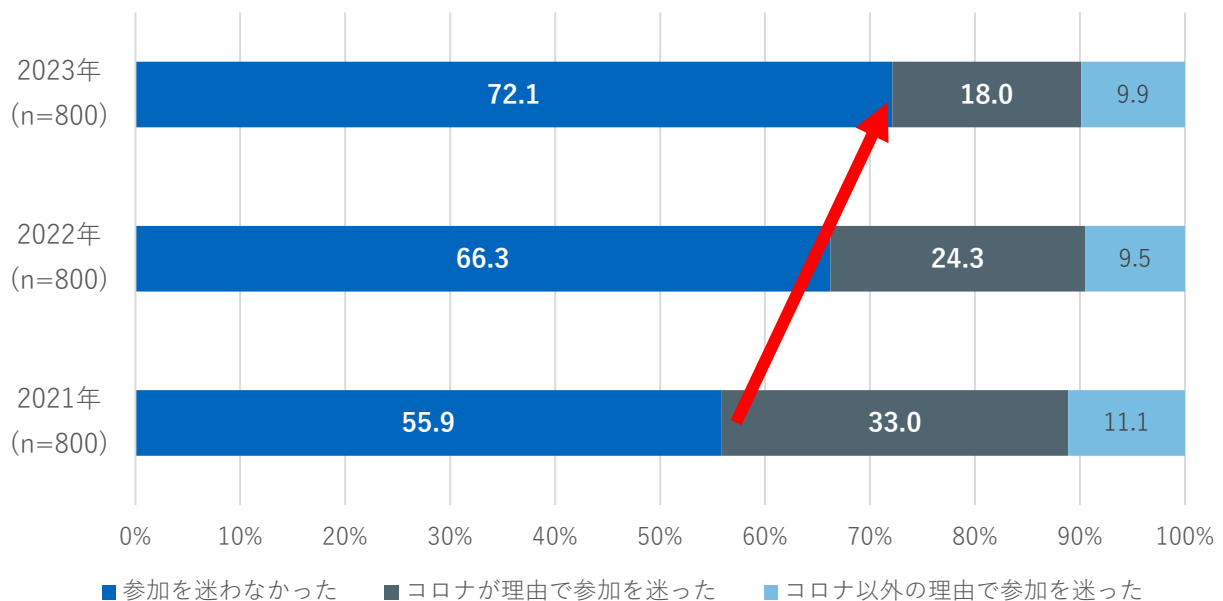
※下表の数値は、「非常にそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5段階で尋ねたうち、「非常にそう思う」+「ややそう思う」の合計

招待を受けたら、できるだけ列席したい



■ ゲストとして出席した「挙式、披露宴・ウエディングパーティー」への参加について（全体／単一回答）

「挙式、披露宴・ウエディングパーティー」への参加を迷ったか

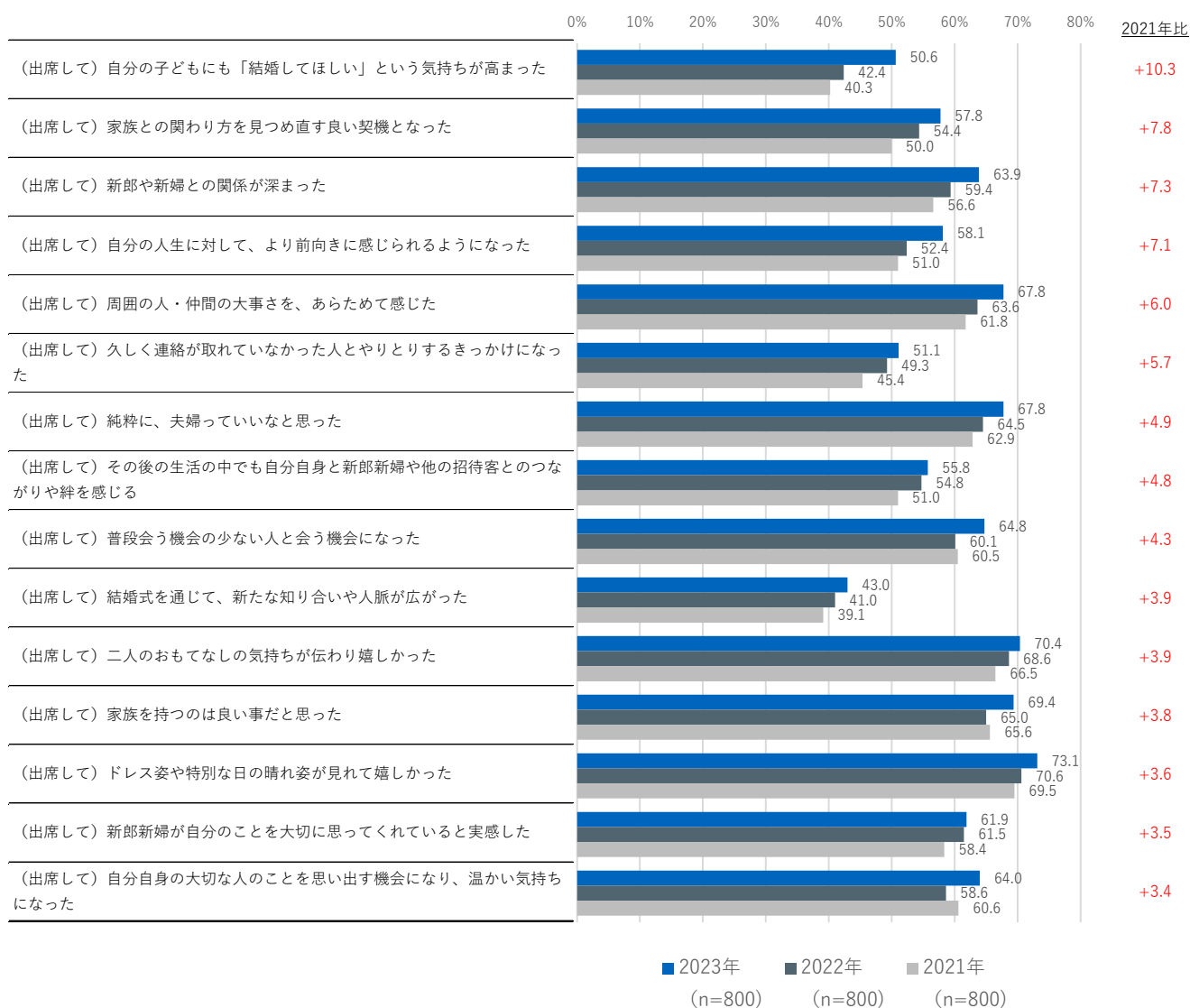


結婚式出席後のゲストの気持ちについて、21年調査と比較して変化した上位5項目は、「（出席して）自分の子どもにも『結婚してほしい』という気持ちが高まった」（10.3ポイント増）「（出席して）家族との関わり方を見つめ直す良い契機となった」（7.8ポイント増）「（出席して）新郎や新婦との関係が深まった」（7.3ポイント増）「（出席して）自分の人生に対して、より前向きに感じられるようになった」（7.1ポイント増）「（出席して）周囲の人・仲間の大事さを、あらためて感じた」（6.0ポイント増）でいずれも2年連続増加。

■出席後のゲストの気持ち（全体／各単一回答）

※下表の数値は、各項目について「非常にそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5段階で尋ねたうち、「非常にそう思う」+「ややそう思う」の合計

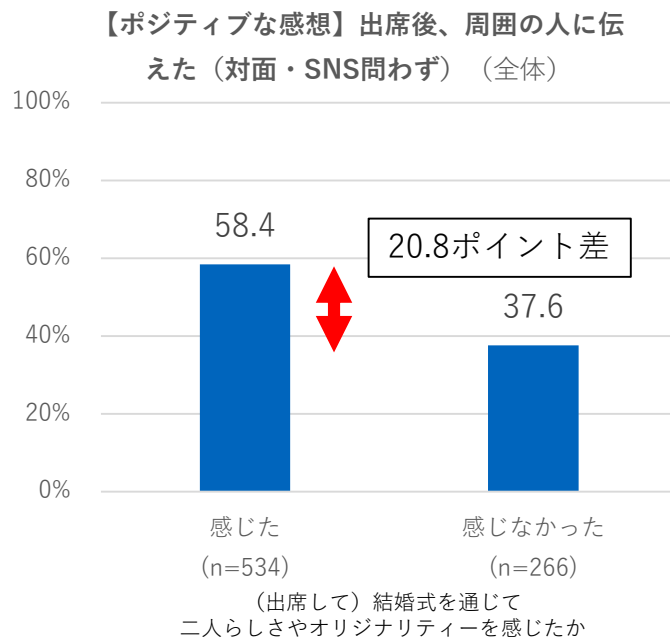
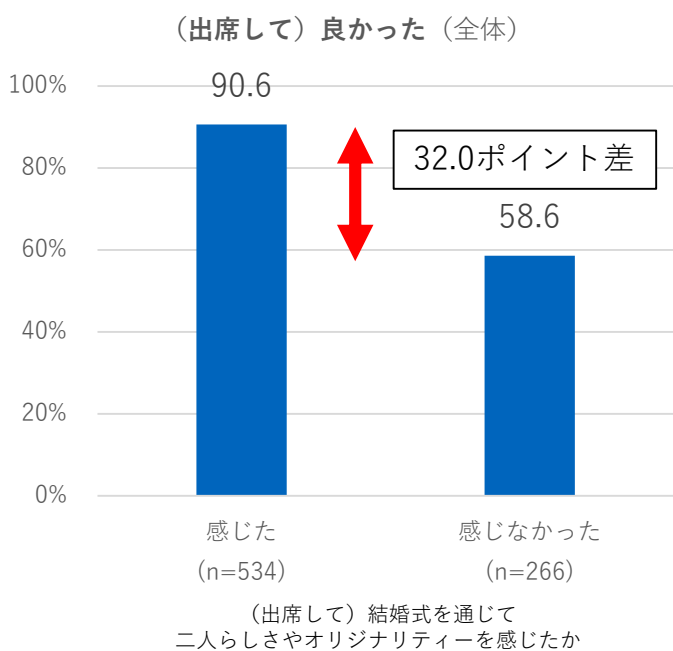
※2021年比で差分の大きい15項目のみ抽出。スコア差分降順ソート



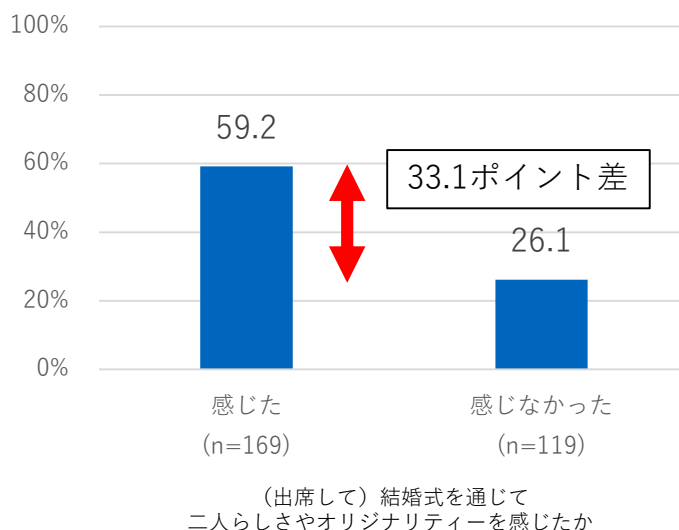
ゲストの気持ちにおいて、「良かった」「ポジティブな感想を出席後、周囲の人に伝えた」「将来結婚したら『挙式、披露宴・ウエディングパーティーを実施したい』という気持ちが高まった」の項目を見ると「（出席して）結婚式を通じて二人らしさやオリジナリティーを感じた」層の方が感じなかった層に比べて高い。

■（出席して）結婚式を通じて二人らしさやオリジナリティーを感じたか否かによるゲスト評価の違い（単一回答）

※下表の数値は、「非常にそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5段階で尋ねたうち、感じた：「非常にそう思う」+「ややそう思う」の合計 感じなかった：「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の合計



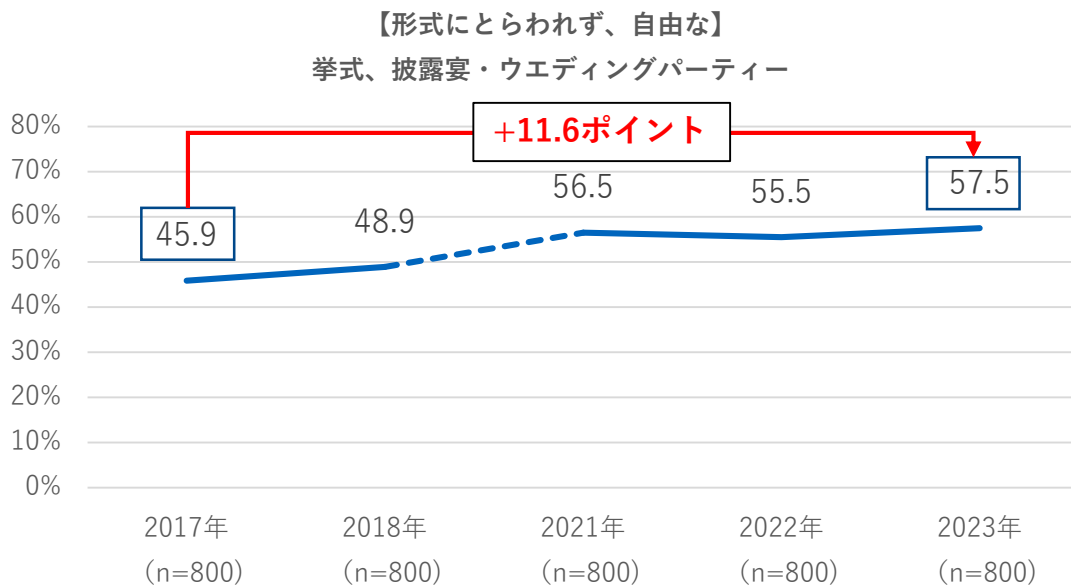
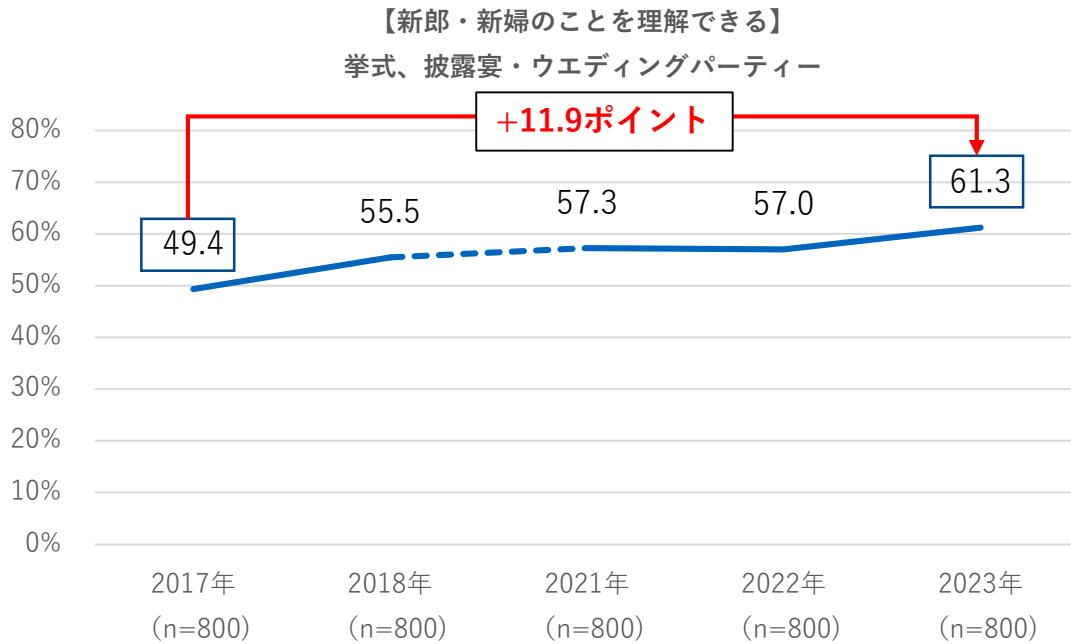
（出席して）将来結婚したら「挙式や披露宴・ウエディングパーティーを実施したい」という気持ちが高まった（未婚者のみ）



ゲストが参加してみたいと思う挙式、披露宴・ウエディングパーティーは、「新郎・新婦のことを理解できる」「形式にとらわれず、自由な」といった内容が、コロナ流行前比で増加。

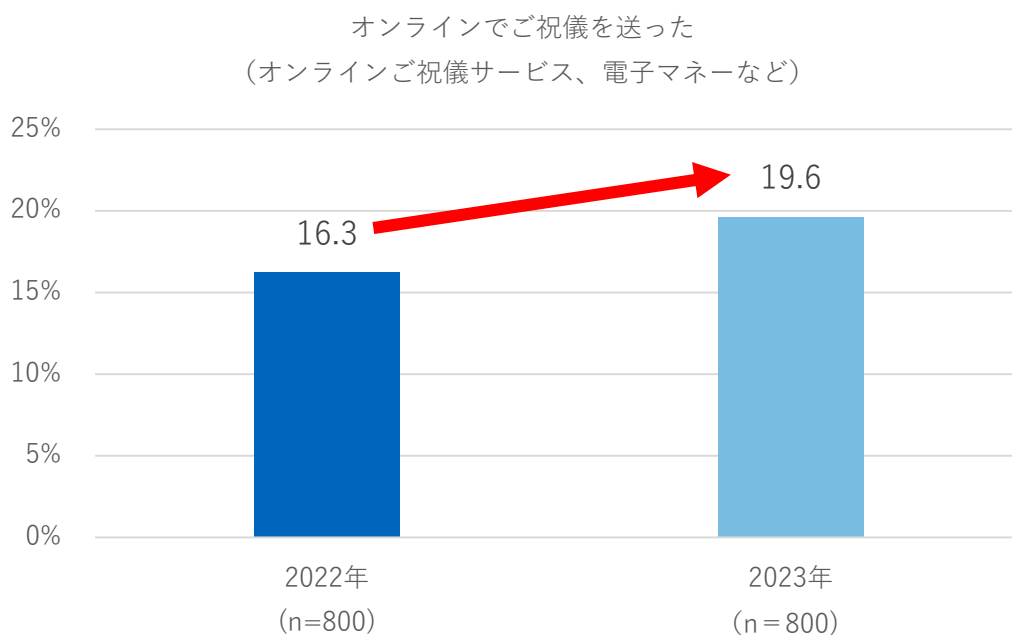
■ 参加してみたいと思う挙式、披露宴・ウエディングパーティー（全体／各単一回答）

※下表の数値は、「非常にそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5段階で尋ねたうち、「非常にそう思う」+「ややそう思う」の合計

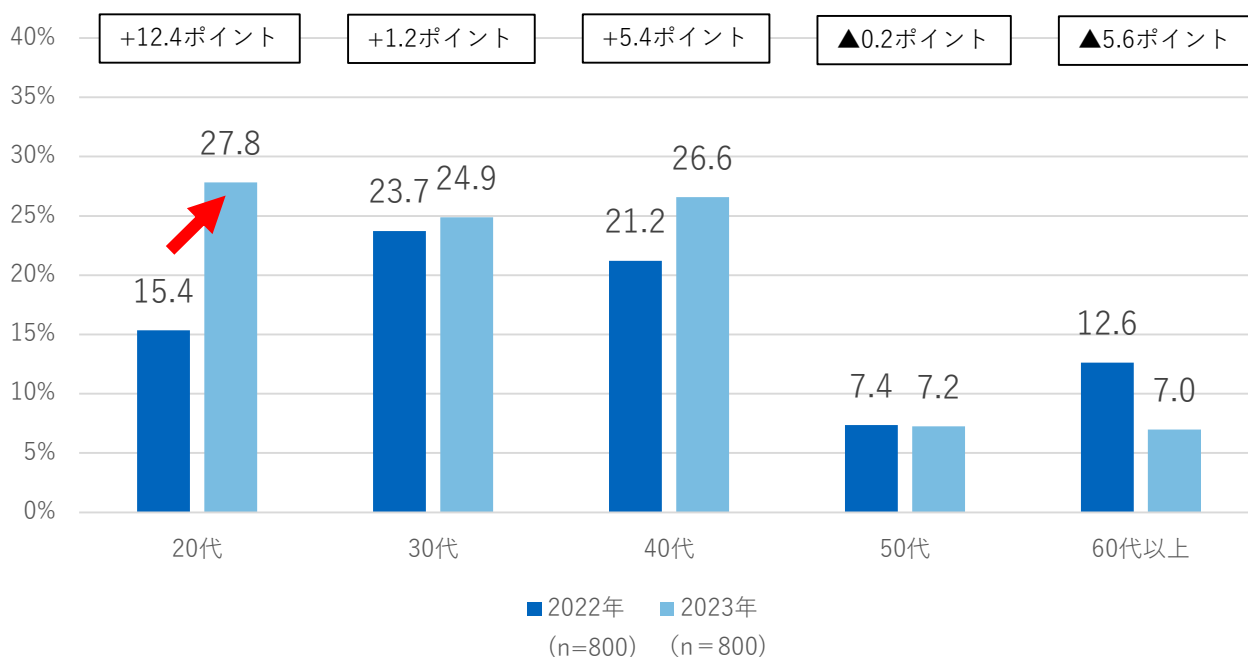


ゲストから見たオンライン祝儀のやりとりの実態は昨年より3.3ポイント増加。約5人に1人はオンラインで祝儀を利用。年代別の利用割合は20代が最も多く、昨年からの伸びも高い。

■ オンライン祝儀の活用状況（全体/各単一回答）



■ オンライン祝儀の活用状況（年代別/各単一回答）



新型コロナ影響の終息の兆しと、ウェディングイベントの実施率

2023年3月13日、屋内外問わずマスクの着用が個人の判断に委ねられました。

5月8日には、新型コロナの感染症法の位置づけが2類相当から5類に引き下げられ、およそ3年にも及んだコロナ禍は社会的に終息の一つの区切りを迎えました。今回の調査は、それより以前の2022年4月～2023年3月に結婚をした方が対象となっています。

コロナ流行当初に比べれば、カップル、ゲスト双方において、感染症への向き合い方を冷静に捉えていると思われる。少なからずコロナ影響のあった期間でしたが、その影響によってウェディングイベントを延期やキャンセルした人は、ピークだった2020年調査（2019年4月～2020年3月に結婚をした方が対象）から減少。ウェディングイベントの実施率は年々増加し、コロナ流行前である2019年調査（2018年4月～2019年3月に結婚をした方が対象）に戻りつつあります。結婚式に参加するゲストに目を向けてみても、参加意欲が高まり、参列の迷いも減少。コロナ影響を脱しつつあることがうかがえます。

結婚式における“二人らしさ”の重要性

コロナによって、結婚式が挙げられない状況は、カップルやウェディングプランナーにとって、これまでよりも「なぜ結婚式を挙げるのか」の意味に向き合う機会となりました。その結果1組1組のカップルにとっての結婚式の意味や価値に丁寧に向き合う営みが増え、結果として起こったのは「結婚式の多様化の加速」です。言い換えれば、「自分たちらしさの追求」です。これらは以前からも潮流として存在していましたが、コロナ禍で結婚式を実施する決断をしたからこそ、より本質的に実施の意義や目的を追求したためと考えられます。

調査を見ても「結婚が決まり、挙式、披露宴・ウェディングパーティーの実施が決まる前」に「自分に合った結婚式ができる」と思った層の方が、それ以外の層に比べて結婚式実施率が高いことが分かりました。また2022年4月～2023年3月の間に、結婚式に参加したゲストへの調査では「新郎・新婦のことを理解できる挙式、披露宴・ウェディングパーティー」「形式にとらわれず、自由な挙式、披露宴・ウェディングパーティー」への参加したい気持ちが高まっており、実際に参列した際に、二人らしさやオリジナリティを感じたゲストは、感じなかったゲストと比べて、参列後に、周囲の人たちにポジティブな感想を波及するという傾向が見られました。一般に想起される、すてきな会場や、おいしい料理、心温まる接客を受けた等と同様、結婚式においては「二人らしさ」を感じることで、周囲に話してみたくなるということが見えてきました。つまりゲストを通してその情報が波及し、自分らしい結婚式ができるという実感が世の中に波及し、結婚式の実施が広がる可能性があるとも言えるのです。

最近のプランニング事例を見ても、結婚式の従来の慣習や、当たり前を見つめ直し、二人らしく、自由にアップデートしている事例が増えてきているように思います。

二人の価値観に丁寧に寄り添い、柔軟で高い提案力をもって「二人らしさ」を実現する営みは、これからの結婚式の進化における重要な観点になると感じています。



株式会社リクルート
プライダル総研
研究員 有田 一真

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人一人のライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、4万6,000人以上の従業員とともに、60を超える国・地域で事業を展開しています。2020年度の売上収益は2兆2,693億円、海外売上比率は約45%になります。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人一人が輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>